

選ばれる社会福祉法人・施設になるためには 魅力ある職場環境づくりに向けた本会経営者部会の取り組み

近年、福祉人材の確保は、経営課題の中でも、常に上位に挙げられるものです。各法人・施設では、さまざまな対策に取り組み、なかなか成果に結びつかないという声も聞かれます。

いかに、自施設の「らしさ」を伝えることができるか、魅力ある職場環境だと感じてもらえるか、本会経営者部会(※)では、福祉業界の人材確保・定着戦略化を推進し、福祉のみならず人材に関する総合的なリディングカンパニーである、(株)リクルートキャリアの協力で、本会がわが福祉人材センターとの連携のもと、昨年度より、新たな取り組みを始めています。

※社会福祉施設等を経営する民間団体で組織。構成法人数497(平成25年5月現在)

会員法人・施設と大学等をつなぐ

この取り組みの特長は、大きく2つあります。それぞれにスローガンを掲げていますが、一つ目は、「オーラル神奈川で福祉業界の魅力をPR、そして活性化していこう!」です。

平成24年12月から25年1月にかけて、会員法人の職員を対象とした、出身大学等調査を行い、約4200名の現況をまとめることができました。それをもとに、一昨年度から進めてきた県内の私立大学30校との取り組みを、本年度はさらに発展させ、

大学近くの会員法人・施設とともに大学を訪問し、学内のガイダンス等就職に向けた取り組みを推進していくこととしています。出身大学等調査結果を生かして、訪問先の学校に、その貴重な人材を示し、OB・OG活用を提案する予定です。

本県は大学数も多く、会員法人・施設も県内に広く点在している中で、それぞれの地域にある法人・施設がカバーし合いながら、まさに、オーラル神奈川で福祉の魅力を伝える、いこうと考えています。

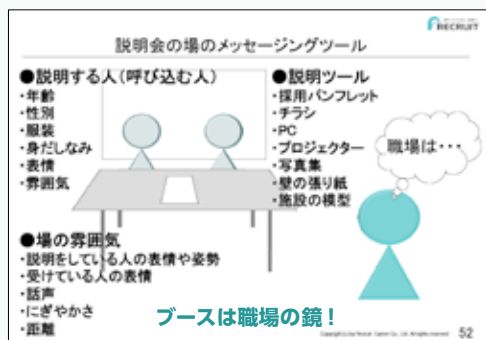
自施設の魅力を伝える

そして、二つ目が「あらためて、それぞれの事業の「らしさ」、魅力を一緒に考えよう!」です。

具体的なアクションプランとしては、たとえば、学生が関心や体験を得られる場を創造するということ

で、「体験バスツアー」を企画しています。これには、受け入れ先となるところが必要ですが、この点は日ごろの部会運営による協力関係を最大限に生かして、バラエティに富んだ体験先をコーディネートしていきます。と考えています。

また、人材センターが毎年行っている「福祉のしごとフェア」【関連記事11面】に向けて、自施設の「らしさ」を表現したブースづくりへの転換も狙っています。これは、6月に「福祉人材確保のためのセミナー」として実施し、「理論編」では、採用パンフレットの具体例や自施設の「らしさ」



採用成功の秘訣は「学生目線に立ちきる」こと。説明会のブースや資料、場の雰囲気づくりは、職場環境を伝えるための重要なツールです



さの「見つけ方・磨き方、メッセージの出し方などを学びます。就職相談会当日のブースの作り方【写真】は必聴です。また「実践編」では、採用担当者として求職者の立場を交互に体験して、一つひとつの言葉(メッセージ)を大切に高めていく方法を考えます。今後は、どんな業界でも人に優しく、いわば、あらゆるビジネスが福祉を視野に入れた事業設計を求められる時代となってきます。「福祉×○○」の視点がかせかない世の中にもなっていくことでしょう。福祉業界は需要の拡大、そして成長していく分野であることは間違いありません。そんな成長分野でのいろいろな働き方を提案し、多くの人材が福祉の魅力を感得てもらえるよう、さまざまな仕掛けをつくっていききたいと思えます。

(社会福祉施設・団体担当)